

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 67
2021.11

TOPICS

1

大学ブランド・イメージ調査において、 岡山大学が「SDGsに積極的な大学」として中国・四国1位に



日経BPコンサルティングがまとめた「大学ブランド・イメージ調査2021～2022」において、同程度の認知率の大学に比べSDGsに積極的だと思える大学として、岡山大学が全国で想起された件数が多い注目の9大学として報告されました。

同調査は、全国の459大学について大学の認知やイメージを8月に調査。結果が11月24日に発表され、今年度から新たに加わった「SDGsへの取り組みや活動に積極的だと思える大学」ランキングにおいて、中国・四国の大学で1位(全国10位)となりました。また、中国・四国編において総合2位(有職者編)となりました。

有職者編の学生ブランドイメージでは、「リーダーシップがある」「精神的にタフである」「語学に長けている」のイメージで1位を獲得。学生の父母編では、「ステータスが高い」「知名度がある」「学部、学科が充実している」「立地が良い」など12のイメージで1位となり、学生の父母編1位を獲得しました。また、同編の「大学認知率」「入学推薦率」「採用意向率」のロイヤリティに関わる3項目でも1位を独占しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10679.html



TOPICS

2

医学部創立150周年記念式典を挙

医学部創立150周年記念式典を11月3日、ホテルグランヴィア岡山で挙行了しました。ご来賓、教職員や卒業生・医療関係者など約150人が、150年の大きな節目をお祝いしました。

豊岡伸一医学部長、榎野博史学長のあいさつの後、伊原木隆太岡山県知事、大森雅夫岡山市長が祝辞を述べられました。特に多額のご支援をいただいた6団体に岡山大学医学部名誉団体表彰を行い、代表して越宗孝昌山陽新聞社相談役からあいさつがありました。

医学部は、明治3年に設立された岡山藩医学館を出発点とし、岡山県医学校、第三高等学校医学部、岡山医科大学と幾多の変遷を経て昭和24年の学制改革により現在の岡山大学医学部となりました。これまでに12,000人以上の卒業生を送り出し、数多くの優れた医師、研究者を輩出し、地域医療のみならず医学研究の発展に寄与してきました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10636.html



Pick up!

新型コロナワクチンについて子どもと考える教材を開発



岡山大学SDGs推進本部は、日本学術会議および一般社団法人知識流動システム研究所(KMS)と共同で、新型コロナウイルスへの理解を深め、感染予防を進めることを目的とした教材「新型コロナウイルスのワクチン接種の意味を一緒に考えよう!」の企画・開発を行いました。教材は、日本学術会議、岡山大学、KMSのHPで公開掲載しています。

世界各国で12歳からの新型コロナワクチン接種が検討される中、本教材の開発メンバーは、「新型コロナウイルスワクチンとは何か、どのような仕組みで効くのか」を科学的に理解し、「ワクチン接種に対する考え方の違い」を、子供たちを含む多くの人々が知り、一緒に考えることが望ましいと考えました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10618.html



TOPICS

3

棚井あいりさんが令和3年度SCRP日本代表選抜大会で優勝！

8月20日に、日本歯科医師会主催の令和3年度スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRP)の日本代表選抜大会がWebで行われ、本学代表の棚井あいりさん(歯学部4年)が優勝しました。

この功績を称え、10月28日に授与式が執り行われ、長塚仁歯学部長より優勝トロフィーと表彰盾が棚井さんに授与されました。

本大会は、学生が主体となって研究を行い、その成果を英語で発表し、最も優秀な発表を表彰する全国の歯学部生による研究コンペティションです。本年度は、全国から代表者21人が参加しました。

研究では、歯周病が胎児の成長発育阻害を誘導する分子メカニズムについて解析しました。棚井さんは、今大会の優勝により、来年3月に米国アトランタで行われる国際歯科研究学会での発表に日本代表として派遣される予定です。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10620.html



TOPICS

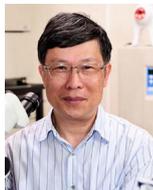
4

植物研の馬教授、山地准教授、異分野基礎科学研究所の沈教授が2021年版の「世界で最も影響力のある科学者」に選出！



馬教授

山地准教授



沈教授

Clarivate Analytics社が発表した高被引用論文著者リスト(Highly Cited Researchers)2021年版において、資源植物科学研究所の馬建鋒教授と山地直樹准教授、及び異分野基礎科学研究所の沈建仁教授が選出されました。馬建鋒教授は2015年版から7年連続、山地直樹准教授は6回目の受賞という快挙となります。

馬教授、山地准教授は、植物の生育に不可欠な各種ミネラルの輸送メカニズムを数多く解明し、「植物・動物学/Plant & Animal Science」分野において、また、沈教授は、光合成タンパク質の構造解析や人工光合成への応用で多数の成果をあげ、「分野横断的/Cross-Field」分野において世界で最も影響力のある科学者として、国際的に高く評価されました。

毎年世界で注目されている本リストでは、自然科学と社会科学の21分野、および分野横断的なカテゴリにおいて、2010年1月から2020年12月の11年間に世界中で発表された全論文のうち、引用された回数が非常に高い(上位1%に入る)論文を複数発表した約6,600人の各国の著名な研究者が選出されています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10666.html

PRESS
RELEASE世界初！天敵から逃れる戦略を制御するゲノムの特徴を解明
～死んだふりを操る遺伝子の全貌を突き止めた～

学術研究院環境生命科学学域(農)の宮竹貴久教授、東京農業大学生物資源ゲノム解析センターの田中啓介助教、玉川大学農学部の佐々木謙教授らの共同研究グループは、米・小麦類の世界的重要害虫であるコクヌストモドキにおいて、死んだふり時間の異なる育種系統間でゲノム全体のDNAリシーケンス解析によってゲノム特徴を比較しました。DNA変異は動く(死んだふりしない)系統より動かない(死んだふりする)系統で多くみられました。その中でドーパミン代謝系関連遺伝子群では複数の変異が見られ、対捕食者回避にドーパミン関連遺伝子が重要なことが分かりました。ほかにもカフェイン代謝系、シトクローム(酸化還元酵素)代謝系、寿命制御系、概日リズム制御系にも変異が見られ、死んだふりという戦略にも複雑な分子基盤が関与することが明らかとなりました。生物が生き延びるために選択する動きを支配する主要な遺伝子はドーパミンと、生活史を制御する複数のタイミングに関連する遺伝子が関与していることを、世界に先駆けて明らかにしました。

本研究成果は、11月8日に英国のオンライン科学雑誌「Scientific Reports」に掲載されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id897.html



宮竹教授

